

2025年度 事業報告書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

前年度に引き続き今年度も、一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、ナチズムとホロコーストの歴史を教材とした教育事業を小学生から中学生・高校生、大学生、一般市民を対象に広く実施した。当NPOの設立以来の事業目的に沿って、知識としての歴史学習にとどまらず、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

主な事業である学校訪問授業は43回(前年度40回)、オンラインでの主催事業は14回(前年度24回)、計57回の実施を通して、延べ7,248名に学習の機会を届けた。昨年に引き続き、問いづくりや哲学対話を取り入れながら、対話を促し、思考を深めるアクティブラーニングを実施し、主体的な学びを促した。

ハイライトとして、下記の三つの取り組みを挙げる。

1. 戦後80年で5年ぶりに「教育関係者向けアウシュヴィッツスタディーツアー」を再開

当NPOでは、2018年に初めて教育関係者向けのアウシュヴィッツスタディーツアーを主催した。2000年のコロナ禍以来、しばらく休止していたが、戦後80年の節目である2025年度は、5年ぶりに実施をすることができた。鳥取、福島、大阪、北九州、埼玉、東京など全国から22名の参加者を迎えて、ポーランドとドイツを訪ねる10日間の旅をした。現地ではナチズムとホロコースト史の学びを核としつつも、現地で目にする大日本帝国や冷戦の記憶を伝える記念碑などを通して様々な歴史に触れながら、平和、人権、シティズンシップ、共生などのテーマで教育のあり方を考えた。史跡や博物館見学だけにとどまらず、対話やワークショップの時間を設け、学びを深めた。帰国後もツアー参加者同士で、国内の歴史を訪ねる旅が続いている。

2. 戦後80年の若者歴史対話

ドイツ外務省助成、連邦政治教育センター主催の若者歴史フェスティバルhistoCONに3回目の招待を受けて、Kokoro代表・石岡史子が5月5日から8日までベルリンで、韓国ルーツのドイツ人研究者とワークショップを共同主催した。日本軍「慰安婦」の証言を教材に、問いづくりや哲学対話などを通して、戦時下の性暴力をめぐる若者たちと探求した。150名を超える参加者の中で、日本、韓国、中国、台湾、ドイツ、ウクライナ、ポーランド、ブルガリア、フランス、エストニア、オランダ、トルコ、ベネズエラ、アルバニア、ガーナ、アルメニア、ブラジル、ルーマニアから28名の若者がワークショップに参加した。

3. 改訂新版『「ホロコーストの記憶」を歩く』を刊行

ドイツ在住の歴史家、教育者である岡裕人氏と石岡史子の共著『「ホロコーストの記憶」を歩く』(子どもの未来社刊)を10年ぶりに内容を大幅にリニューアルした。ホロコーストの記憶継承や現地での学びをより深く伝える内容へと刷新し、当NPOが実施するスタディーツアーにおいても、事前・事後学習に活用できる一冊として刊行することができた。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業 (展示パネル等の貸出)

下記のオンライン教材を今年度もホームページで公開し、訪問授業の事前学習などに活用してもらった。

- (1)「アンネとまちよと希望のバラ」
- (2)「ヤーノシュの物語」
- (3)「若者対話：歴史を知ってどうということ？」
- (4)「世界に向かって叫べなかったことをわたしたちはここに埋める」
- (5)「子どもたちの抵抗ーぼくたちは新しい文化をつくる」

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブックログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,523冊。フォロワー23名。

3 講演会、セミナー等の開催事業

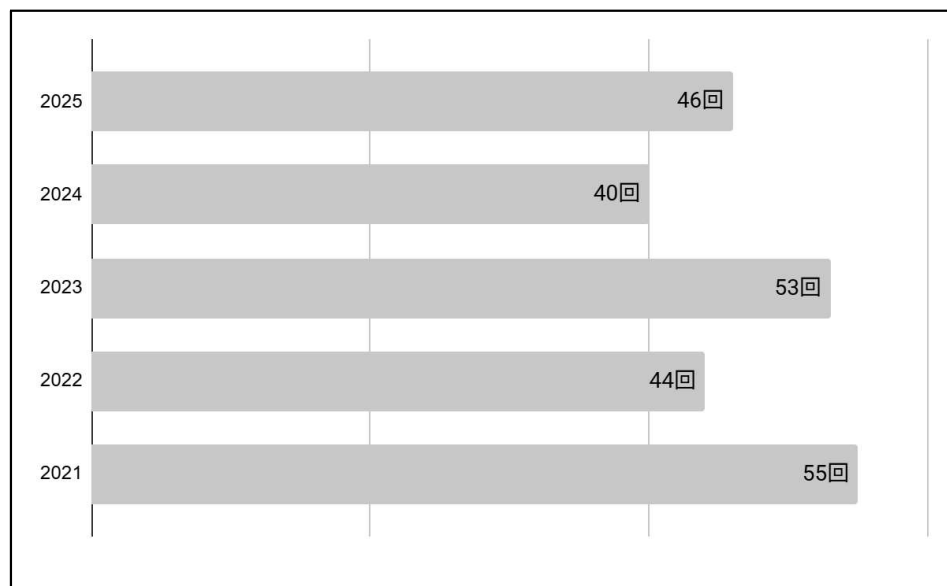
3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計43回実施した。

([対]=対面開催、[オ]=オンライン開催)

1	2025/4/15	明海大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
2	2025/4/22	綾瀬市立春日台中学校	中学校	対	ハンナのかばん
3	2025/5/29	Hebrew Foundation School	小学校	オ	ハンナのかばん
4	2025/5/27	東京女学館中学校	中学校	対	ハンナのかばん
5	2025/5/28	品川女子学院高等部①	高校	対	ハンナのかばん
6	2025/5/31	法政大学	大学	対	人間環境セミナー
7	2025/6/5	名古屋外国語大学	大学	オ	ハンナのかばん
8	2025/6/12	東京横浜独逸学園	小学校	対	ハンナのかばん
9	2025/6/16	啓明学園初等学校	小学校	対	アンネフランク
10	2025/6/17	新座市立第三中学校	中学校	対	ハンナのかばん
11	2025/6/18	東京都立大泉高等学校附属中学校	中学校	対	アウシュヴィッツからの問い
12	2025/6/25	西南学院高校	高校	対	Janosさん講演会
13	2025/7/2	愛知教育大学①	大学	オ	ハンナのかばん
14	2025/7/9	愛知教育大学②	大学	オ	ハンナのかばん
15	2025/7/10	北区立田端小学校 (5年生)	小学校	対	ハンナのかばん
16	2025/7/10	北区立田端小学校 (6年生)	小学校	対	杉原千畝
17	2025/7/14	品川女子学院高等部②	高校	対	アウシュヴィッツからの問い
18	2025/7/26	高麗博物館	博物館	対	問いづくり
19	2025/8/3	新英語教育研究会		対	問いづくり
20	2025/8/30	八百津町	自治体	オ	ハンナのかばん
21	2025/9/8	文京区立音羽中学校	中学	対	ハンナのかばん
22	2025/9/27	NIE学会 (愛知東邦大学)	大学	対	シンポジウム?
23	2025/10/14	田園調布雙葉小学校	小学校	対	アンネフランク
24	2025/10/28	桐朋女子高校	高校	対	ハンナのかばん
25	2025/10/31	開智高校	高校	対	ハンナのかばん
26	2025/11/6	晃華学園	中学校	対	ハンナのかばん
27	2025/11/12	吉野作造記念館 (キャンセル)	博物館	対	ハンナのかばん
28	2025/11/14	東京都人権啓発センター	自治体	対	アンネフランク
29	2025/11/17	東邦大学	大学	対	ハンナのかばん
30	2025/11/20	名古屋外国語大学	大学	オ	ハンナのかばん
31	2025/11/26	創価女子短期大学	大学	対	ハンナのかばん
32	2025/11/30	戸田母親大会	自治体	対	ハンナのかばん
33	2025/12/10	セントヨゼフ女子学園	中学校	対	杉原千畝

34	2025/12/13	ふじみ野市教育委員会	自治体	対	ドラ・グリーンバーグの物語
35	2025/12/16	横浜市立洋光台第二中学校	中学校	対	ハンナのかばん
36	2025/12/20	東京純心女子高校	高校	対	ハンナのかばん
37	2026/1/14	明治学院高校	高校	対	ハンナのかばん
38	2026/1/21	聖心女子学院中高等科	中学校	対	ハンナのかばん
39	2026/1/22	香蘭女学校①	高校	対	アウシュヴィッツからの問い
40	2026/1/29	香蘭女学校②	高校	対	杉原千畝
41	2026/2/16	光塩女子学院	小学校	対	ハンナのかばん
42	2026/3/11	練馬開進第三中学校	中学校	対	ハンナのかばん
43	2026/3/13	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対	ハンナのかばん



3-2. NPOの自主事業として開催

3-2-1 ワークショップ

「『わたし』の問いを見つけるvol.3—沖縄をめぐる対話」

開催日時	2025/6/14(土) 20:00～21:30
内容	一人ひとりの発想を尊重し、民主的な学びの場をつくることを目的として、「問いづくり」を取り入れたワークショップを実施した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計19名
参加者アンケートより	▶他人事として考えている人は、そう考えることしかできないのだ、と切り捨てて考えるべきか、それともなんとしてでも自分ごととして考えてもらおう働きかけるべきか。自分とは違う考えをもつ人(戦争に対する犠牲にそこまで関心を持たない人)に対するアプローチをどのようにしていくべきかに頭を悩ませました。人によって違う考えをすべて受け入れることが一番必要なのか。答えができません。みなさんにも聞いてみたかったです。(一部抜粋) (20代) ▶戦争の犠牲者に対して無意識に「尊い」という言葉を使用していたことを反省しつつ、改めて考えることができてよかったです。何に対して誰に対して「尊い」のか、「尊い」とされた犠牲者のご遺族の感情など、想像の域をでないことも多いけれど、「自分事」として考える(考え直す)機会になりました。(50代)

3-2-2 小さな平和実践ワークショップ

「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2025/6/20(金)20:00～21:30
内容	一人ひとりの発想を尊重し、民主的な学びの場をつくることを目的として、「問いづくり」を取り入れたワークショップを実施した。
会場	オンライン

参加費	無料
対象／参加人数	学生～一般／合計19名
参加者アンケートより	▶人をモノのように見るナチスの視線が恐ろしく、死ぬ時までも尊厳が踏みにじられる形であったことがショックでした。焼却炉をつくっていたトップフ社の人の持っていた、自分の利益やよりよく生きたいという欲求は現代の人も同じですが、その時に視野を狭めることなく、偏見から自由であり、他者の人生を尊重できるかどうか、大切なのではないかと思います。また、そのためには、他者のことを考えるエンパシーの伴う理解・想像が必要であり、時代の趨勢になんとなく身を任せるのではなく、常識を疑い自分で考え、知ることが必要なのではないかと感じました。様々な方の意見を聞いて、思わぬ視点を発見することができ、自分の考えを深めることができました。（10代） ▶アウシュビッツの焼却炉を作っていた会社の事は初めて知りました。T&S社の請求書を観て、この会社はどういう目的でナチスが使うかを理解していて、多大な利益を得ようとしていた事におぞましさを感じました。その会社の跡継ぎが、1970年代後半頃に第2次世界大戦の時に自分の企業が犯した罪に向き合って記念館を建てた事には救われた思いがしました。今の時代も企業がどのような事をして利益を得ているかを知るのは大事な事だと思います。え続けることで、思考が深まっていくのかなあ、と思いました。（一部抜粋）（60代）

3-2-3 映画「Three Minutes - A Lengthening」オンライン上映会 3分間の16ミリフィルムが物語る歴史と記憶◇第23期NPO総会特別企画

開催日時	2025/6/28(土)14:00～17:00
内容	第23期NPO総会の特別企画として開催。日本初公開となるドキュメンタリー映画「Three Minutes - A Lengthening」の上映をした。1938年、ポーランドのある村で旅人が撮影したホームビデオに映る人々は、その後ナチ・ドイツの侵攻を受け殺される運命にある。体験者から直接話を聞く機会が失われた時、継承とはどのように形を変えているのか。このホームビデオはどんな歴史を物語るのか。映画上映後にディスカッションをし、歴史の継承について考えた。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計32名
参加者アンケートより	学術目的で撮影されたのではない、ホームムービーだからこそ残ったのではないかと思います。他にも貴重な資料が沢山、人知れずに埋もれている可能性は高いのではないかと。カメラ自体が珍しい時代だったと思うので、カメラを向けられた人たちのリアクションも、新鮮に感じられました。多くの人が観るに値する価値の高さを感じます。一方、「画」としては地味なので、ナチズムやホロコーストにあまり興味の無い人に広く浸透するのは難しいのかな、とも思います。（40代）

3-2-4 オンライン歴史さんぽ in ワルシャワ

開催日時	2025/7/4(金)20:00～21:30
内容	ワルシャワの街に点在する第二次世界大戦の史跡を案内した。スタディツアーで訪問している世界遺産リングェルブルム・アーカイブや記念碑を紹介した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計40名
参加者アンケートより	▶歴史と日常に寄り添う姿勢は現代の人間の営みと将来への展望には欠かせないことであると実感します。（50代） ▶地理教育が専門なのですが、Google Earthを使っていたので分かりやすく見ることができました。ワルシャワについてももちろんですが、地理歴史の授業としても非常に勉強になりました。（30代） ▶昨今、ガザやウクライナの悲劇を見てきましたが、私達がホロコーストから学ぶことで、今 平和のために何ができるか、日本人のソフトパワーも必要とされている気がします。（50代）

3-2-5 オンライン歴史さんぽ in クラクフ

開催日時	2025/7/12(土)20:00～21:30
内容	クラクフの街に点在する第二次世界大戦の史跡を案内した。世界遺産になっている旧市街や旧ユダヤ人街のカジミエシュ地区、ゲットー跡地などを紹介した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計34人
参加者アンケートより	▶位置関係がよく分かり、まさにオンラインで散歩した感覚です。クイズも含めて最初から最後まで興味深く参加させて頂きました。つい先日京都に旅行して意図せず東九条方面を散策しました。今回その歴史を教えて頂き、街の雰囲気の不思議の謎が解けました。(60代) ▶ポーランドが様々な形で記憶の継承に取り組んでいることは素晴らしいことだが、しかし記憶はいつの間にか浄化され美化されたり、どこか他人ごとのように陥ってしまったりすることに注意が必要だという言葉は最もだと思います。今後は現代に視える化された歴史を学ぶ際には、そのような意識も必要であることを学びました。(50代)

3-2-6 オンライン歴史さんぽ in ベルリン

開催日時	2025/7/19(土)20:00～21:30
内容	瀧元深祈さんをゲストにお迎えし、ナチ時代の記念碑を中心としたベルリンの街に点在する第二次世界大戦の史跡を案内していただいた。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計28人
参加者アンケートより	▶事前研修が進むにつれて、益々知りたい事が多くなります。(70代) ▶躰きの石の設置の様子など貴重な映像をたくさん見せていただきありがとうございます。瀧元さんの解説も分かりやすくとてもよかったです。(50代)

3-2-7 ワークショップ

「問いと対話で開く人権教育ーナチズムの歴史を教材に」

開催日時	2025/7/21(土)14:00～16:00
内容	教育関係者を対象に、ナチズムの歴史を探究するワークショップを開催した。スタディツアーの事前学習として企画し、一般参加者も迎えた。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計22人
参加者アンケートより	▶とても刺激になる時間でした。大学生の方とお話しできたのも良かったです。日本ではなかなかデリケートな話題で話すことが難しい土壌がありますが、話そうと言う意志を持った方々と時間を共有し、いろいろな見方を出し合えること、そして考え合えること、本当に貴重な時間をありがとうございました。わたしは本来中国が専門、韓国語もやり、日本とアジアのことを考え続けています。その視点も含めて、いろんな方々と考えを出し合っていきたいと感じました。答えは出なくても、自分の頭で考えること、大事ですね。(60代) ▶年代、国籍様々な方の参加があったので、意見が興味深く、刺激になりました。ドイツについての学びですが、今の日本を考える上でとても重要でした。ユダヤ人の家財オークション写真に笑顔の人々が映っており、自分も今まさに何かの犠牲の上に笑顔かもしれないと感じ、見えない存在を考えるきっかけになる一枚でした。(一部抜粋) (40代)

3-2-8 オンライン歴史さんぽ in アムステルダム

開催日時	2025/8/2(土)20:00～21:30
内容	アムステルダムの街に点在する第二次世界大戦の史跡を案内した。アンネ・フランクの足跡に加え、オランダ市民の抵抗運動の現場や日本と関わりの深い歴史も紹介した。

会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計29名
参加者アンケートより	▶アンネ・フランクにまつわるエピソードを、Googlemapやたくさんの写真、動画で紹介していただき、まだ行ったことのない隠れ家の様子をリアルにイメージできました。トリビア的な情報も、参考になり、クイズ形式で面白かったです。最新の情報も盛り込んであり、いつか訪問してみたいという思いを強くしました。 また、オランダのパラドックスと言われる抵抗者と密告者のせめぎ合いは、歴史に対する見方に大きな示唆を受けました。命懸けでレジスタンスに取り組んだ人々の努力に敬意を表すとともに、私利私欲で行動するのも人間の悲しい性だとも思います。ご紹介いただいた博物館の展示内容が大変興味深いです。植民地や加害の側面からも目を逸らさず歴史から学ぶ姿勢は、素晴らしいと思います。(50代) ▶オランダ初の国立ホロコースト博物館が2021年に建てられたと聞いて、この現代でオランダの国を挙げて第2次世界大戦時の負の歴史に向き合う姿勢に感銘しました。当時のオランダ人が他の西ヨーロッパ諸国の国と比べて、収容所に輸送されるユダヤ人を止める事が出来なかった上に、ナチスに協力した市民が大勢いたということを自ら展示しているとのこと。日本は同じ大戦での加害の歴史を殆ど国民に公に伝えていないと思いました。石岡さんが、正義と悪とを簡単に割り切れない、解りやすい言葉では語れないと仰っていた言葉も本当にその通りと。今の日本の大衆が解りやすい言葉に流されて行っているように思えて危機感を感じています。(60代)

3-2-9 ヤゲウォ大学移民研究所カロル・ウィルチンスキさん講演会 「平和のつくりかた "教育"にできること」

開催日時	2025/8/28(木)14:30～17:00
内容	クラクフで移民や難民の支援活動を行っているカロル・ウィルチンスキさんによる講演会を開催した。支援の現場のお話を聞きながら、日本の社会もふりかえりつつ、共生社会について一緒に考える。
会場	埼玉大学
ゲスト	カロル・ウィルチンスキさん
対象／参加人数	学生～一般／合計30名

3-2-10 【U30対象】問いづくりワークショップ 「"平等"をめぐる対話」-「多様性の尊重」「共生社会」言葉ばかりが独り歩きする社会で、私は何を問う？

開催日時	2025/9/22(月)20:00～21:30
内容	一人ひとりの発想を尊重し、民主的な学びの場をつくることを目的として、「問いづくり」を取り入れたワークショップを実施した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計7名

3-2-11 高校生イベント 「歴史の継承とは何か一戦後80年の問い」

開催日時	2025/10/13(月・祝)14:00～16:00
内容	第二次世界大戦の終結から80年目の節目で、ドイツから初来日したギーセン大学のホロコースト文学研究所所長ザーシャ・フォイヒェルト教授をお迎えして、歴史の継承とは何かという問いをめぐり、高校生、大学生を中心とした参加者と対話し、考えた。
会場	ゲーテ・インスティトゥート東京
ゲスト	ザーシャ・フォイヒェルト、ギーセン大学教授 伊藤白、学習院大学教授
対象／参加人数	高校生 14名、大学生3名、社会人14名、合計31名
参加者アンケートより	▶普段当たり前前に語ってしまう「歴史」を再考するきっかけになりました。貴重な経験をさせていただきました。(10代)

	▶記憶の文化という、日本では馴染みのないものを大切にしているドイツの歴史や文化に、今回の参加を通してより惹かれました。他の方がする質問も、自分では思いつかなかったものばかりで、視野が広がり、楽しかったです。(10代) ▶移民に歴史をどのように学んでもらうのがいいのかということや、差別的表現が含まれる当時の資料を廃止するのかそれともそのまま資料とするのかというような普段は人と話す機会のかい難しい話題まで、大人や同じ高校生らと話すことができとても楽しかったです。普段のモヤモヤが少し形になってきた要な気もするしかえってもっとモヤモヤが増えたように思います。ですがそのモヤモヤも大切にしたいです。(10代) ▶私は今日のイベント「歴史の継承」そしてドイツ中等教育の「記憶の文化」の話を東アジア日中韓の事情に置き換えて聞いていました。日本は最大の隣人中韓国と共通の記憶を持てていません。言語、教育、博物館は海を隔て加害者と被害者が共通の記憶を持てない中、経験やお話に向き合う事が大事だと思いました。 ▶高校生、大学生、大人たちが協働して深い学びの場を作り上げていたことに感銘しました。記憶から歴史の段階に移りつつあるホロコースト問題、今も公然と繰り返されるジェノサイドやテロルの現実、排外主義や歴史修正主義勢力の増長、行き過ぎたポリコレとフェイクの放置、etc. 営々と記憶の文化を築きあげたドイツでさえ、十年前には想像も出来なかったような厳しい現状下にあることを伺い、衝撃を覚えました。歴史の危機の時代にあって、歴史とどう向き合っていくのか、改めて問われる時代なのだと思います。歴史の森の小さな落穂（いのちの尊厳の痕跡）を死者の生きた証として丹念に拾い集めること。落穂拾いである私たちそれぞれの原点を問い直し続けることなんだろうと感じました。(60代)
--	---

3-2-12 刊行記念トーク

「記憶をめぐる思考の旅へ出かけてみませんか」

開催日時	2026/2/7(土) 20:00～21:30
内容	2026年2月4日に、ドイツ在住の歴史家・教育者である岡裕人さんとKokoro代表・石岡史子の共著書『「ホロコーストの記憶」を歩く一過去をみつめ未来へ向かう旅ガイド』の改訂新版が出版された。刊行を記念して、本書にコラム「ベルリン街歩き植民地時代の記憶」を寄稿した瀧元深祈さんを交えて、著者二人のトークイベントを開催した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生から一般まで／合計70名
参加者アンケートより	▶Kokoroのイベントに参加すると、ノートにはいつも問いが並んでいます。本もモニュメントも創って終わりではなく、その歴史やプロセスを伝え続けたり、本やモニュメントを守り続ける取り組みが重要だと感じました。本を持って旅に友達と出かけるだけで、私も継承者の1人になるのでは？と思った時間です。誰が何の目的でモニュメントを作ったのかという視点の重要性にも気付かされました。(20代) ▶政治的イデオロギーに左右されないで、「(包括的な意味での) 私たち」の社会における建設的な対話が、いろいろな場所で、いろいろな機会に求められると考えますが、実際のところ、基本的に対立してしまった意見を持つ両者による対話は、どのようにしたら成立しうるのかということも含めて、まずは、私自身において自問しつつ考える必要があるように感じました。(一部抜粋) (40代)

3-2-13 U35トーク

「わたしのファミリーヒストリーをたどる旅」

開催日時	2026/3/28(土)14:00～16:15
内容	戦争体験を語らずに亡くなった家族を持つ二人の若者が、それぞれアジアとヨーロッパのアーカイブを訪ね、断片的な記録をたどる旅をしてきた。その過程で生まれた問いや葛藤を共有しながら、歴史の継承について参加者と一緒に考える。
会場	聖心グローバルプラザ
対象／参加人数	学生から一般まで／合計37名

参加者アンケートより	▶若い方々が、自分の親族の歴史を調べて、語る姿には感銘を受けました。いろいろな受け取り方をする方がいる中で、特に親族には心遣いをしながらも、対話の姿勢を築こうとしていらっしゃる点にもこれからの希望を感じました。知ってしまったことは、知らなかったことにはできない。自分で感じたことは、感じていないことにはできない。それをどう取り扱うか、焦らずに周りに伝える方法を考えていきたいと私も思いました。話し合いのセッションで、短時間にお互いに納得しあうことはむずかしくても、それでもお互いの考えを聞き合ったことで、自分が広げられたと感じました。（60代） ▶登壇されたお二人のご講演を通じて、戦争のことを一種の「知識」として学んだだけでなく、戦争の記憶を継承する難しさには、論理的には説明が困難な感情、という一つの大きな壁があることを新たに知ることができました。戦争経験者の方のお話を聞く機会は、学校の平和教育でありました。が、戦争のことを後世に残そうとする方の目線でお話を聞く機会は、今回が初めてでした。同じテーブルに座った人同士で、世代を超えてお話する時間も設けていただき、非常に興味深かったです。（10代）
------------	---

3-3. スタディツアーおよび海外でのプログラム

3-3-1 Kokoro主催教員スタディツアー

開催日時	2025年8月
訪問都市	(ポーランド)ワルシャワ、クラクフ、オシフィエンチム (ドイツ)ベルリン
対象／参加人数	22名
参加者アンケートより	・ガイドの中谷先生のアプローチの仕方が最高に良かったです。知識を得ることと、自分に問いかけることの大切さを痛感しました。また、実際にそこに立ってみて五感が得るものの大きさに感動しました。体験をどのようにしてフィードバックしようかと考え中です。 ・中谷さんの解説が今も疑問を持たせてくれています。答えを与えるのではなく、訪れた人に考えさせるような印象があります。それが、日本とドイツ、同じ敗戦国ではありますが、歴史の伝え方の違いだと感じました。一生心に残るツアーとなりました。ありがとうございました。 ・何から何まで目から鱗の素晴らしいツアーでした。こんなツアー、これまで他にはちょっとありませんでした。

3-3-2 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	2025年8月18日～25日
訪問都市	(ポーランド)ワルシャワ、クラクフ、オシフィエンチム
対象／参加人数	大学生16名

3-3-3 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	2026年2月18日～25日
訪問都市	(ポーランド)ワルシャワ、クラクフ、オシフィエンチム
対象／参加人数	大学生9名



(左)中谷剛さんのガイドでアウシュヴィッツ見学
(右)アウシュヴィッツ見学後に博物館教育部によるワークショップに参加

3-4. NPOの自主事業—大学生インターン受け入れ

3-4-1 インターン9期生

受入期間	2025年5月23日～2025年9月22日
採用過程	4月19日 オンライン説明会 4月30日 応募締め切り 5月23日 活動開始 9月19日 インターン修了式 9月22日 オンラインイベント補佐—活動完了
受入人数	大学1年1人、大学2年生1人、大学3年4人、大学4年1人、大学院生1人 計8人
活動内容	▶オンラインミーティング 計11回 ▶イベント参加、運営アシスタント 計9回 6月14日 ワークショップ「『わたし』の問いを見つけるvol.3- 縄をめぐるとの対話」 6月20日 小さな平和実践ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」 6月28日 ドキュメンタリー映画上映会&NPO総会 7月4日 オンライン歴史さんぽ in ワルシャワ 7月12日 オンライン歴史さんぽ in クラクフ 7月19日 オンライン歴史さんぽ in ベルリン 7月21日 ワークショップ「問いと対話で開く人権教育-ナチズムの歴史を教材に」 7月26日 李鶴来さんの言葉と出会う-私の「応答可能性」をめぐるとの対話 9月22日 問いづくりワークショップ「"平等"をめぐるとの対話」-「多様性の尊重」「共生社会」言葉ばかりが独り歩きする社会で、私は何を問う？ ▶学校訪問授業同行 計2回 5月28日 品川女子学院 7月14日 品川女子学院 ▶Podcast収録 計2回 8月29日 9月13日
インターン生のふりかえり	▶最初はホロコーストにいて知識を深めることや歴史に向き合うことを目的にインターンシップに応募したが、活動を通して、知識を深められただけでなく、哲学対話のおもしろさ、安心して話せる場の重要性、問い合うことや対話の大切さにも気づくことができた。また、インターンに入る前は歴史や政治の話題を周りの人と話すことを難しく感じていたが、ミーティングやワークショップに参加する中で、様々なバックグラウンドを持つ人と出会い、哲学対話のグラウンドルールのもとで意見などを自由に話す場を経験できたことは大きな学びとなった。
スタッフ所感	8名のインターン生を迎え、これまでで最も多い人数であった。大学生活等の中で、普段から周りの人と歴史や政治について議論をしている学生とそうでない学生が半分ずつ見られたが、ミーティングやイベントでの哲学対話を重ねるにつれ、一人ひとりが他者の言葉を聴き、自分の意見を主体的に発言する姿勢が見られるようになった。異なる意見が出た際には、それを一度受けとめた上で自分の意見を共有する姿が活発に見られたことが印象的であった。Podcastでは、グラウンドルールを設定するにあたり「どうしたら安心して対話ができるか」を軸に丁寧にミーティングを重ねた。

4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro通信」(ニュースレター)

Kokoro通信(A4、8ページ)は前年度に引き続き休刊した。

4-2. 「Kokoroメルマガ」の発行

Kokoroメルマガは、9回発行し、イベント情報などを合計7,290名にメールで提供した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	131号	2025/4/3	戦後80年企画 アウシュヴィッツへの旅[教育関係者向け]	810
2	132号	2025/6/9	日本初公開！オンライン映画上映会のご案内	810
3	133号	2025/7/3	夏のイベントご案内 明日からスタート	810
4	134号	2025/7/24	高麗博物館とコラボふたたび	810
5	135号	2025/11/1	秋のイベントご案内	810
6	136号	2026/1/19	ジョージの日記	810
7	137号	2026/2/6	明日開催！共に生きる未来のために	810
8	138号	2026/3/10	ザクセンハウゼンでの教育実践WSほかご案内	810
9	139号	2026/3/20	旅程のご案内ー夏休み教員研修ツアー	810

4-3. その他のSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

SNSによる定期的な情報発信を継続して行った。Instagramではメインのアカウントとは別に@KokoroYouthのアカウントでインターン生が中心となって投稿を担当した。

Facebook <https://www.facebook.com/npok.therc/>
 Instagram <https://www.instagram.com/hanassuitcase/>
 Youtube <https://www.youtube.com/@npokokoro>

4-4. メディア寄稿、取材

下記の新聞で活動が取り上げられた。

- 2025年10月18日 中日新聞
「名古屋で日本NIE学会 情報どう届け どう受ける」
- 2026年3月28日 しんぶん赤旗
「家族の戦争体験をたどり、歴史の事実を知る」



4-5. ポッドキャスト「Kokoroラジオ」

大学生インターン8期生の企画をきっかけにして2025年3月より始めたインターネットの音声配信を継続し、9期生と3回の配信を行った。歴史を知識や情報として発信するのではなく、歴史や記憶そして現在の身近な社会や世界に思いをめぐらせる時間を届けたいという趣旨のもと、Kokoroの日常や、最近観た映画などをテーマに学生たちが言葉を交わした記録を配信した。

<https://www.npokokoro.com/podcast>

配信日	テーマ
6月5日	問いづくりやってみました♪
9月2日	戦後80年、「負の歴史」とどう向き合う？マンガ『戦争めし』と考える
9月20日	そもそも平和のために『私』ができることってあるの？



2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時		従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネル(オンライン含む)やビデオの制作・提供	随時	事務所	2名	不特定多数	57,941
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNSなどでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	不特定多数	57,941
	ブックログ(登録1428冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	43回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般 5,051人以上	3,200,749
	NPO自主企画	17回	オンライン		508人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	メールマガジン	9回	事務所	2名	7,290名	349,910
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	2回		2名	不特定多数	
	SNSツールの活用 ・ Facebook ・ Twitter ・ Instagram ・ YouTube	週3回		10名	不特定多数	